

石巻市雄勝地区にて、公民館や小学校、避難ができない方のお宅へ訪問診療を行いました。この先どうなるのか不安なはずなのに、自分のことより我々のことを気遣ってくださる姿に、東北の方の強さとやさしさを感じました。不安な情勢が続きますが、共に乗り越えましょう！

福井県赤十字血液センター 北川聖幸



震災の混乱が治まっていなかった夜、一人のお子さんが病院に連れてこられました。治療して点滴が終わるころ、その子は母さんに抱かれてすやすや寝ていました。子をじっと見つめる母のまなざしが印象的でした。これからもあの日のことを忘れません。

富山赤十字病院 津幡真一

震災から3ヵ月後の6月、こころのケア班の事務担当で石巻市に入りました。何人もの方からお話しを伺った体験は、赤十字職員だからでなく、一人の人として大きな指針となりました。コロナが収束し石巻市にお伺いできる日を心待ちにしております。

日赤九州ブロック血液センター 増田善久

石巻赤十字病院を拠点として避難所に食品や物資を届けた時、若者や年配の方々が一列に並び、力強く声掛けしながら次々とダンボールを手渡し運んでいました。その姿に、過酷な状況の中でも力を合わせて行きぬく人間の強さを感じ、とても感動しました。コロナ禍の今、思い出し乗り越えていきたいです。

相模原赤十字病院

きずな新聞のお届けを通じて、石巻に三度伺いました。仮設住宅や復興住宅には、一人で住んでおられる方が多かったのが心に残っております。80代で一人住まいの母の事にも重ねて、皆様今はどんなお気持ちだろうかと思いを馳せています。どうかお体を大事になさって下さい。

きずな新聞 マニー（埼玉）



震災発生1ヶ月後に石巻赤十字病院にて、救命センターでの診察補助や看護ケアをさせていただきました。「診ていただいて、ありがとう」「どこから来たの？遠いところからありがとう」と声をかけて下さり、とても励まされ、心が温まりました。お体にお気を付け下さいませ。

長浜赤十字病院 野上幸代

石巻赤十字病院で傷病者の受け入れに携わりました。被災者の方から「遠くからありがとう」と温かいお言葉をかけていただき、逆に励まされ、勇気づけられ、人との関わりの有り難さを強く感じたことを覚えています。コロナ含め皆様の一日も早い復興を衷心よりお祈り申し上げます。

高知赤十字病院 影山真人

きずな新聞のお届けに石巻へ二度伺いました。快く玄関を開けて「ご苦労様」と労ってくださったり、お茶っこの招いてお話を聞かせてくださった皆様のことを思い出す度に、早く会いに行きたい気持ちでいっぱいになります。またお会い出来る日を楽しみにしています。お身体に気をつけて。

きずな新聞 きむ（名古屋）



昨年からの感染拡大で、大変な日々をお過ごしだと思います。10年前の震災と重なる部分があり、思い出される事もあるのではないのでしょうか。しかし私たちは、励まし合い、絆を築いてきました。今は寂しい時間も多そうですが、きっとまた笑って過ごす時が来ると信じています。

きずな新聞 わっさー（塩竈）

2011年4月7日の深夜、派遣中の石巻赤十字病院で震度6強の余震に遭いました。生命の危機を感じる揺れと絶望感のなかで頑張った石巻の仲間との絆は今も続いています。あのとき中学生だったお嬢さんが、この春から助産師として就職するという嬉しい連絡をもらいました！

日赤医療センター 中根直子



石巻赤十字病院敷地内の救護所にて業務にあたりました。その間、みんなで震災を乗り越えようと支えあっている姿や掲示板に貼ってある復興への決意、目にするたび逆に励まされていたことを思い出します。一日も早く安心した生活に戻れますよう祈念しています。

日赤熊本健康管理センター 豊永一秀

震災から約2ヵ月後、学校支援で石巻へ行きました。石巻日赤の周辺にはまだ爪痕が残る様子も伺えましたが、一生懸命に生活している方々に勇気をもらいました。病院の玄関に掲げた、五月晴れの空におよぐ鯉のぼりの力強さが印象的でした。忘れません。

岡山赤十字看護専門学校

山形県内ボランティアと一緒に、石巻市内の仮設住宅に交流支援事業として訪問させていただいた際、皆様の笑顔に触れ、逆に元気をいただいたことを思い出します。未だ収束の見えないコロナ禍ではありますが、こういう時こそ笑顔で乗り越えましょう。どうか健康第一で！

日赤山形県支部 岡崎



もう10年になるんですね。新型コロナのため、石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、また会いにいきますね。時間が経っても悲しいお気持ちは変わらないと思いますが、少しでも元気出してもらえるのが嬉しいです。新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん（東京都）

10年間、たくさん涙と笑顔を皆さんと共有しました。直接お会いした方、紙面を通して出会ってくださった方、すべての出会いに感謝です。11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。あの日を生き抜き、そして今日まで生きてくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき（東京/石巻）

